

平成 28 年度茶園関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成 28 年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成 29 年 3 月 1 日(水)に植調会館 3 階会議室において開催された。
この検討会には、試験場関係者 8 名、委託関係者 2 名ほか、

計 18 名の参集を得て、除草剤 1 薬剤(3 点)、生育調節剤 1 薬剤(1 点)について、試験成績の報告と検討が行われた。
その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	ねらい	判定	判定内容
1. NC-360 フロアブル キザロホップエチル:7.0% [日産化学工業]	茶	一年生および多年生イネ科	実・継 継)	実) [一年生イネ科雑草] ・春～夏季 雑草生育期(草丈30cm以下) ・500～1000mL<100L>/10a ・茎葉処理(畦間) 継) ・多年生イネ科雑草に対する効果、薬害の確認

統計データから

花きの生産

花きは、冠婚葬祭、贈答用、装飾等の様々な用途や場面に使われている。その産出額は 3,801 億円(平成 27 年)で、農業産出額の 4%を占め、切り花類が 6 割、次いで鉢ものの類が 3 割、花壇用苗ものの類が 1 割の構成である。産出額の多い順に①キク 692 億円で主な用途はお葬式や供花、②洋らん 333 億円で祝い用、③花壇用苗ものの類 302 億円、④ユリ 217 億円で装飾用や供花、⑤バラ 190 億円でブライダルや記念日用、⑥花木類(鉢) 168 億円、⑦切り枝 151 億円で生け花用、⑧庭園用庭木 148 億円、⑨カーネーション 126 億円で母の日用、⑩トルコギキョウ 117 億円となっている。また、花きの産出額上位 5 県は愛知 626 (億円、以下同)、千葉 256、福岡 229、埼玉 185、静岡 180 となっている。

表には、平成 28 年の作付(収穫)面積、及び出荷量に占める主要生産県等を示した。

切り花類の作付面積は前年産に比べ 2%、出荷量も 2%減少している。同じように球根類は 13%と 6%、鉢ものの類は 3%と 1%、花壇用苗ものの類は 2%と 3%減少し、これらは高齢化による規模縮小の影響が大きき要因となっている。

(K.O)

品目	作付面積(ha)	上位都道府県の出荷量シェア(%)			
		出荷量計:37億8,100万本			
切り花	14,590	出荷量計:37億8,100万本			
キク	4,801	愛知:31	沖縄:18	鹿児島:6	
カーネーション	301	長野:21	愛知:17	北海道:10	
ばら	347	愛知:18	静岡:9	山形:7	
りんどう	434	岩手:60	秋田:12	山形:7	
洋らん類	130	福岡:17	徳島:13	沖縄:10	
スターチス	185	和歌山:49	北海道:33	長野:6	
ガーベラ	93	静岡:38	福岡:13	和歌山:10	
トルコギキョウ	437	熊本:12	長野:12	福岡:9	
ゆり	752	埼玉:21	高知:12	新潟:9	
アリストロメリア	81	長野:34	愛知:18	北海道:12	
切り葉	660	東京:34	沖縄:24	鹿児島:12	
切り枝	3,631	静岡:15	茨城:14	和歌山:9	
球根類	317	出荷量計:9,540万球			
		鹿児島:25	新潟:19	富山:17	
鉢物	1,675	出荷量計:2億2,640万鉢			
シクラメン	188	長野:15	愛知:9	栃木:7	
洋らん	195	愛知:23	熊本:11	福岡:8	
観葉植物	304	愛知:51	三重:10	静岡:9	
花木類	391	愛知:28	新潟:18	岐阜:10	
花壇用苗もの類	1,451	出荷量計:6億4,900万本			
パンジー	275	埼玉:8	神奈川:7	奈良:6	